

科目名	保健医療福祉行政論		科目ナンバリング	N-FN HS 1-15. H N	単位数 時 間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N20019		30時間				
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	川村 泰子・ 中尾八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 我が国における保健、医療、福祉の基本理念を理解し、その理念を具体化している法律・制度・政策や具体的なサービス、関係機関等の仕組みについて学ぶ。少子高齢化が進む我が国の人口構造、疾病構造の変化や、保健・医療・福祉の実態および保健統計の動向など、多面的な側面から問題解決する能力を養うことをめざす。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、6、7に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 我が国の社会保障制度を俯瞰し、その中での保健医療福祉行政の概略が説明できる。 2) 医療・介護の保険制度、社会保障制度について学習し、地域の健康水準向上のための行政活動をイメージできる。 3) 看護職として、具体的な事例をもとに、適切な制度利用や社会資源の活用について考察できる。 4) わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的知識を持ち、自らの意見を述べるができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	保健医療福祉行政のめざすもの		保健医療福祉行政の動向、公衆衛生の定義、感染症対策						講義	
第2回	保健医療行政の変遷（1）		公衆衛生活動の歴史と変遷						講義	
第3回	保健医療行政の変遷（2）		公衆衛生活動の歴史と変遷 ・「母子保健の歴史」をグループワークで考察する						グループワーク ディスカッション、PBL	
第4回	社会保障の理念としくみ		日本の社会保障制度の概要						講義	
第5回	医療保障のしくみ（1）診療報酬制度		日本の医療供給体制（診療報酬制度など）						講義	
第6回	医療保障のしくみ（2）公的医療保険		日本の公的医療保険制度の概要						講義	
第7回	医療保障のしくみ（3）公費負担医療など		日本の公費負担医療などの制度						講義	
第8回	保健医療福祉の仕組みと連携 (1) 高齢者		在宅サービスにおける保健・医療・福祉のしくみと連携の実際						講義	
第9回	保健医療福祉の仕組みと連携 (2) 母子		児童虐待支援における保健・医療・福祉の仕組みと連携の実際						講義	
第10回	保健医療福祉の仕組みと連携 (3) 連携の現状		自治体における公衆衛生活動の実際						講義	
第11回	保健福祉行政の財政		国・地方公共団体の財政の仕組みと予算編成						講義	
第12回	社会保障の仕組み（1）		年金制度および雇用保険						講義	
第13回	社会保障の仕組み（2）		・生活保護を含むセーフティネット ・障害児および児童などを対象とした福祉制度						講義	
第14回	住民参加とコミュニティづくり		演習：GWを通して、ディスカッションし発表する						グループワーク ディスカッション、PBL	
第15回	看護管理と「連携・ネットワーク・チーム」		公衆衛生看護活動における実践 事例：青森県の実践						講義	
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を、読むことをお勧めする。									
教材教科書参考書	教科書：藤内修二編 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論 第5版（2021） 医学書院 978-4-260-04222-2 参考図書：厚生統計協会：国民衛生の動向。2022/2023									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で紹介された文献・国民衛生（福祉）の動向・実際の保健医療福祉行政に関するニュースなどの自己学習が重要である。</li> <li>・ 随時、文献および書籍等を紹介したい。</li> <li>・ 社会の流れや課題について、毎日のニュースを通して学ぶことが不可欠である。</li> </ul>									

科目名	看護情報システム論		科目ナンバリング	N-FN 1-17.S N	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	N20020	時間	30時間				
区分	看護基礎科目 アクティブラーニング	選択 有	担当者名	三 上 聖 治 (実務経験 あり)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 日々行っている看護過程の情報化について理解を深め、看護情報システムの意義を理解するとともに、システムのあり方や可能性について今後の課題を扱います。 チーム医療を機能させるために共有した情報についての判断能力とそれぞれの情報の持つ倫理的課題について理解します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、9に関連している。 カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達 目標	<p>日々行っている看護過程の情報化について理解を深め、看護情報システムの意義を理解するとともに、システムのあり方や可能性について今後の課題を扱い身につけます。 また、チーム医療を機能させるために共有した情報についての判断能力とそれぞれの情報の持つ倫理的課題について理解します。 さらに、今後ますます進展する電子化による効率性と危険性について考えることができる能力を身につけます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	看護情報システム論とは			現状の看護情報システムの紹介と基になった考え方について						
第2回	情報化社会			情報化社会の光と影について				グループワーク		
第3回	保健医療と情報			情報の入力から活用まで						
第4回	看護と情報			看護情報はどこからきてどのように活用できるかについて				グループワーク		
第5回	医療情報システムとは			病院情報システムの構成とセキュリティについて						
第6回	情報倫理			情報倫理の変遷とこれからについて						
第7回	患者の権利と情報			個人情報の開示と保護の関係について						
第8回	個人情報保護			誰のための個人情報保護かについて						
第9回	コンピュータリテラシー			ICTの構成と機能について (演習あり)				グループワーク		
第10回	データベースシステム			データベースの構築と検索について (演習あり)				グループワーク		
第11回	ネットワークシステム			ネットワークの構成と利用について (演習あり)				グループワーク		
第12回	情報処理とは			データ加工について (演習あり)				グループワーク		
第13回	情報発信			WEBやSNSの使い方 (演習あり)				グループワーク		
第14回	システム構築のために			ハードウェア、ソフトウェア、セキュリティを考慮した資源とスタッフについて						
第15回	看護情報の標準化			将来の情報活用のために						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業の対応と期末試験の加算方式 授業の対応 (10%)、試験 (90%)</p>									
課題等	課題は科さない。									
事前事後 学修	事前学習として合計22.5時間以上を目安とする。									
教材 教科書 参考書	教科書： エssenシャル看護情報学 ， 医歯薬出版 ISBN978-4-263-23762-5 C3047									
留意点	パソコンの基本知識や操作、ネットワークの概念は把握しているものとして講義を進めます。									

科目名	看護関係法規		科目ナンバリング	N-FN HS 1-17. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	N20023		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾 八重子 川村 泰子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	看護職はその職務上、多くの法規に関係しており、看護サービスの提供においては、基盤となる法規および関係法規を理解することが不可欠である。看護職として、法律を遵守し職務を遂行するために必要な法規あるいは法令と言われるものに関する基礎的知識を学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] デプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。									
到達 目標	1. 健康支援看護業務を規定する法と倫理を説明できる。 2. 看護職として社会的責務を果たすために必要な基本的な考えや法律を説明できる。 3. するための根拠や判断基準がわかる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考
第1回	保健医療福祉と法のかかわり方（1）			チーム医療と法の構造						
第2回	保健医療福祉と法のかかわり方（2）			医療提供の理念と医療安全						
第3回	保健医療福祉と法のかかわり方（3）			人に関する法律						
第4回	支えるシステムに関する法律			お金によって支えるシステムに関する法律						
第5回	法制度を取り巻く考え方（1）			看護過誤（医療過誤）						
第6回	法制度を取り巻く考え方（2）			インフォームドコンセント						
第7回	看護と患者（住民）情報の取り扱い			個人情報保護法における個人情報の扱い						グループワーク ディベート
第8回	労働法と看護			労働者としての権利を保障する関係法規						グループワーク ディベート
評価 方法 及び 評価 基準	1) 2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、リフレクションペーパー、定期試験等から総合的に評価。 2) 授業の参加状況：10% 3) リフレクションペーパー：すべての授業終了時に提出 内容 10% 4) 定期試験：80%									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材 教科書 参考書	教科書：看護をめぐる法と制度第4版、メディカ出版、2023 ISBN978-4-8404-7838-0 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。									
留意点	1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。									